

つどい

第17号



目黒行人坂火事絵巻（国立国会図書館デジタルコレクション）

「目黒行人坂火事絵巻」は、明和9年(1772)に大圓寺から発生した火事の一連を描いたものです。上の絵は火消しや町人、奉行人などが消火作業している様子が描かれています。

この火事は江戸の三大火事に数えられるほどの事件だったとされますが、どれくらい大きな火事だったのでしょうか？2ページ目より、目黒行人坂の火事について紹介します。

〈目次〉

江戸の火事	2
竪穴住居の跡のあと	4
日本民芸館	5
目黒区 90 周年	6
目黒区ゆかりの名工展	7

江戸の火事

目黒行人坂火事二五〇年



猛火に挑む町火消たち。図中央の竜吐水は、火消したちに水をかけているのがわかる。
目黒行人坂火事絵巻（国立国会図書館デジタルコレクション）

今を遡ること 250 年前の明和 9 年（1772）に目黒行人坂火事（明和の大火）が発生しました。江戸の三大火事の一つに数えられるこの火事について、記録や絵巻物からその様子を紹介します。

目黒行人坂の火事

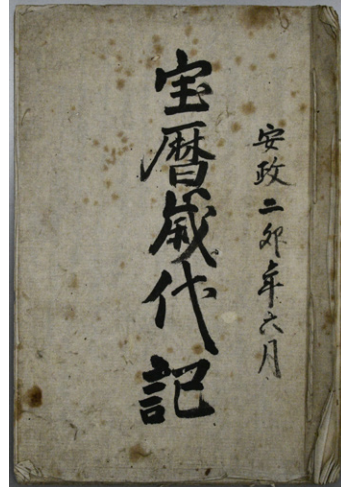
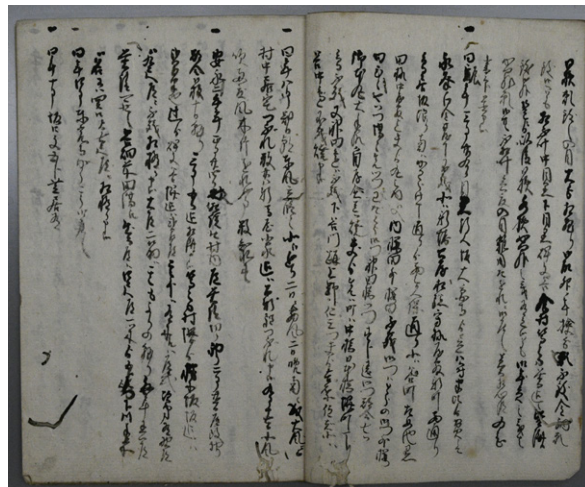
行人坂は現在の目黒区下目黒、JR 山手線目黒駅から目黒川の谷に下る坂です。『江戸名所図会』によると、寛永年間（1624 ～ 44）、出羽国湯殿山の行人（修行者）が大日如来の堂（現在の大圓寺）を建立したために名付けられたといわれています。明和 9 年 2 月 29 日にこの坂の付近で火事が起こり、多数の死傷者を出しました。

江戸幕府の公式記録である『徳川実紀』同日条によると、「29 日 未 刻（午後 1 ～ 3 時頃）を過ぎた頃、江戸城の西、目黒行人坂の大圓寺という寺から失火しました。南風が強く吹き起り、炎は所々に飛び散り、白金、麻布、西久保、桜田より江戸城内に移り、和田倉、馬場先、日比谷、神田の城門、評定所、伝奏衆の旅館、宿老、少老の邸宅が数多焼失して、本町、西町、神田、下谷、浅草、千住の村里まで焼け広がりました。酉時（午後 5 ～ 7 時頃）に本郷菊坂町より別にまた火が起こり、駒込、千駄木、谷中の辺りに移り、東叡山寛永寺が焼け、心観院殿（将軍徳川家治の正室、倫子女王）の霊牌所をはじめ、仁王門、山王権現の社殿より、谷中、本村に燃え移り、夜が明けてようやく鎮まり、翌日 申 中 刻（午後 4 時頃）に至って鎮火しました。被災した地域は、幅は 1 里（4km）を超え、長さは 4、5 里（16 ～ 20km）に及び、焼死したものは 400 余人と伝え聞きます。明暦丁酉（1657）の後は、聞いたことのない大災です。明日はこの度の心観院殿の法要が終わったので、日光門跡を饗し申し上げようと、使者を遣わしたけれども、これも今宵また中止になされた」と記されています。

一説には、江戸の三分の一を焼き尽すほどの大火で、死傷者の数も 1 万 8 千人とも、2 万人ともいわれ、未曾有の大災害であったことが窺えます。大火の後、秋には暴風雨が被災した人々を直撃したので、人々は「迷惑年（明和九年）」だと噂をするようになり、同年 11 月 16 日に明和から安永に改元となりました。当時の落首に「年号は安く永くとかわれども諸色高直いまにめいわ九」と詠われています。当時の人々は、こうした災害を後世に伝えるため、「目黒行人坂火事絵巻」や「宝暦歳代記」などの絵巻物や記録を作りました。

目黒行人坂火事絵巻

紙本着色。1 巻。作者及び成立年不詳。目黒行人坂火事は、明暦の大火（振袖火事）、文化の大火（車町火事）とならぶ江戸三大火の一つ。明和 9 年 2 月 29 日の大火の発生から消火及びその復興までの一連を描いたもの。行人坂にある大圓寺を火元としたところに因む。国立国会図書館蔵。



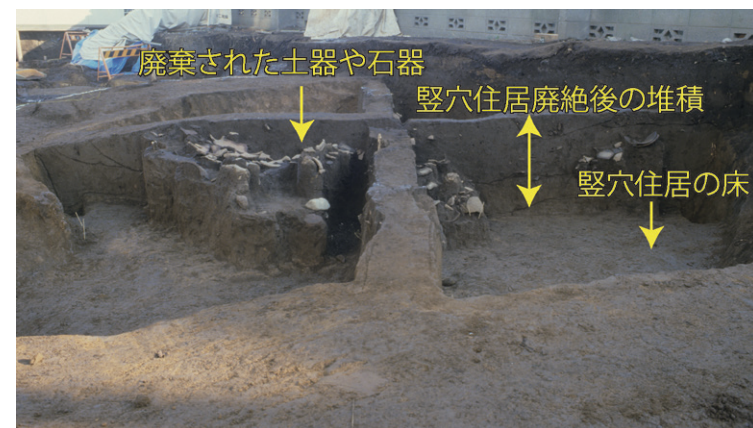
宝暦歳代記（栗山家文書）

紙本墨書。1 冊。武威国住原郡 袞 村の組頭を務めた栗山家に伝わる。「同辰年三月（二カ）廿九日 目黒行人坂大圓寺方屋八ツ時半（午後 3 時）頃方出火して永峯、白金臺丁不残、北ハ新橋土屋相模守様屋敷新町西通り鳥居坂限り、南ハかわらけ丁通り方西久保通り、（下略）」と記される。当館蔵。

竪穴住居の跡のあと

縄文時代の竪穴住居は地面を数 10cm から 1 m 以上掘り窪めて作られています。地面を掘って建物を作った理由としては、地面を掘ることによって壁を作り、住居の中の空間を有効に利用するためや、建物の中の温度を保つためなどの理由が考えられます。古墳時代以降、壁を地上に作る掘立柱建物が普及すると竪穴住居も少なくなっていました。

一度建てられた竪穴住居は、柱を付け替えたり、壁を掘り広げて拡張したりすることがありますが、やがて老朽化、住人の移動や死亡、あるいは火災など様々な要因によって廃棄されることになります。廃棄の際には、竪穴住居の中をきれいにしておき土器などを残さない場合もあれば、大きな縄文土器が床に置かれたまま発掘調査で見つかる場合があります。柱は再利用のために抜き取られてしまうこともありますし、住居と一緒に捨てられてしまった場合もあったようです。しかし竪穴住居の跡を、わざわざ埋め戻して平らに整地するということはしていませんでした。そのため、北海道や東北地方北部では 1,000 年以上前の



竪穴住居跡の断面と出土した遺物



上：出土した土偶
左：土偶の出土状況



東山貝塚遺跡で発見された竪穴住居跡

竪穴住居の跡が、今でも窪みとして地表に点々と残されている遺跡もあります。

発掘調査をしていると、使われなくなった竪穴住居が徐々に埋まって行く途中の土の中から、土器片や石器、貝殻や動物の骨が大量に出土することがあります。これは縄文時代の人たちが竪穴住居跡地をゴミ捨て場として使っていたことを示しています。

東山貝塚遺跡H地点の調査では、直径約 4.5 m の円形の竪穴住居から縄文土器片 3,005 点、土製品 23 点、石器 109 点が出土しました（写真参照）。出土した遺物は、円い竪穴住居の真ん中あたり、そして床よりも高い位置から発見されています。このことから、使われなくなった竪穴住居が放置され、端の方から壁が崩れるなどして埋まっていき、真ん中が円く窪地になっていた頃に土器などが捨てられたと考えられます。この中にはめぐろ歴史資料館で展示している小さな土偶も混ざっていました。

竪穴住居跡は、人が住んでいた時だけではなく、跡地になってからも貴重な情報をもたらしてくれています。

東京都指定有形文化財（建造物）

日本民芸館

約 100 年前、暮らしの中で用いる日用品の美に着目した思想家・柳宗悦（1889 － 1961）が中心となって、民衆的工芸を意味する民芸という新しい美の概念が提唱されました。民芸の普及と美の生活化を目指す活動が民芸運動で、本拠の展示施設として建設されたのが目黒区駒場にある「日本民芸館（現、本館）」です。

令和 3 年 3 月、東京都指定有形文化財（建造物）に指定された日本民芸館 3 棟（本館、西館旧柳宗悦邸主屋、西館長屋門）を紹介します。

本館



昭和 11 年（1936）、柳宗悦邸（現、西館）の道路をはさんだ東側に建築されました。建物の基本設計から陳列ケース・調度品のデザインまで柳が自ら行った、民芸のための展示施設です。

本館は先に竣工していた西館長屋門に应じるように意匠されたため、外壁は共通してナマコ壁風の太谷石貼り白漆喰仕上げです。内部は和風を基調としますが、吹き抜けの玄関ホールや踊り場で左右に分かれる大階段など随所に洋風の要素が融合しています。

西館旧柳宗悦邸主屋

先に移築していた長屋門に接続して、昭和 10 年（1935）に建てられた木造 2 階建の建物です。柳一家が暮らすとともに、民芸運動の仲間が集う場所でもありました。

瓦屋根や下見板貼りの外壁は和風住宅を想起させますが、内部の間取りや各部屋は近代の生活スタイルに合わせて機能的な造りになっています。主屋の基本設計は柳自ら手掛けたもので、内装や建具の意匠にも柳の考えが反映されています。



西館長屋門



日本民芸館 3 棟のうち、最初に建てられたのが西館長屋門です。柳が駒場に自邸を新築するにあたり、現在の宇都宮市にあった長屋門を購入して、昭和 9 年（1934）に移築しました。長屋門の開口部の表に扉を付けて玄関口とし、奥に主屋を接続して建築することで自邸の一部に転用しています。特徴的な太谷石製の石屋根は、太谷石の産地である宇都宮市太谷町周辺でも現存が少ない貴重なものです。

東京都指定有形文化財（建造物）

日本民芸館	3 棟	本館（附属塀を含む）	1 棟
		西館旧柳宗悦邸主屋	1 棟
		西館長屋門（附属塀含む）	1 棟

指定年月日：令和 3 年 3 月 19 日

所有者：公益財団法人 日本民芸館

所在地：目黒区駒場四丁目 3 番 33 号（本館）
及び四丁目 5 番 3 号（西館）

公開：入館は有料（特別展観覧料）です。

特別展開催日や西館公開日は、日本民藝館 HP（<https://mingaikan.or.jp/>）でご確認ください。



本館 大階段

目黒区 90 周年

昭和 7 年（1932）10 月 1 日に荏原郡目黒町と荏原郡碑 衾 町が合併し、現在の目黒区が誕生しました。令和 4 年は目黒区が誕生してから 90 周年を迎える節目の年になります。

目黒区の誕生

近世ごろ、現在の目黒区となる地域は上目黒村・中目黒村・下目黒村・三田村・碑文谷村・衾村の全部で 6 つの村に分かれていました。明治 22 年（1889）の地方自治制度改革により、各村々が合併し荏原郡目黒村と荏原郡碑衾村が誕生しました。その後、大正 11 年（1922）に目黒村は目黒町、昭和 2 年（1927）に碑衾村は碑衾町となり村制から町制へ移行しました。

昭和 7 年 5 月に町村の廃止と新区の編成の方針が出されました。荏原郡は廃止となり、目黒町と碑衾町は東京市へ編入、また同時に両町の合併が決定し、現在の「目黒区」となりました。

合併後の区役所は、後に区の中央に移転することを前提に旧目黒町役場を使用していました。その後、昭和 11 年に中央町に移転し、平成 15 年（2003）に現在の総合庁舎へ移転しました。目黒村と碑衾村の町役場や旧目黒区役所の建物は現在残っておりませんが、めぐろ歴史資料館では写真や旧目黒区役所の大時計、目黒町と碑衾町の両町役場の表札が配された合併記念額などの資料を所蔵しています。

まためぐろ歴史資料館では、令和 4 年 7 月中旬から 10 月初旬にかけて、目黒区の区制施行 90 周年を記念し、目黒区 90 年の歴史を紹介する企画展を開催予定です。ぜひご来館ください。

角田市との友好交流 40 周年

昭和 57 年（1982）の区制施行 50 周年の際に、250 名を超える区民や関係者が参加する友好列車が企画されました。その列車は宮城県角田市に向かい、かつて目黒にいたとされる武士目黒氏を訪ね、目黒氏館跡や墓所などを見学したそうです。この友好列車から目黒区と角田市の交流が始まりました。

令和 4 年度は交流が始った友好列車から 40 周年の記念を迎える年となります。

目黒氏とは

かつて目黒区の地域である武蔵国荏原郡目黒村には目黒という名の武士がいたとされています。『吾妻鏡』建久元年（1190）11 月 7 日条に初めてその名前が確認でき、鎌倉幕府の御家人であったと考えられます。

室町時代以降に目黒から角田へ拠点を移したことが史料から確認されており、現在の角田市には、目黒氏館跡や墓所などの史跡があります。

昨年の秋にめぐろ歴史資料館では、特別展「中世武士目黒氏の軌跡―列島を駆け抜けた武士たち―」を開催しました。この特別展では、目黒から角田へ移った目黒氏の子孫に伝来した兜や文書など、目黒氏の末裔の方々や角田市郷土資料館から資料をお借りし、たくさんの方にご来館いただきました。

目黒区的主要歴史

- 1932 目黒町と碑衾町が合併し目黒区誕生
- 1934 月光原・駒場小学校開校
- 1936 目黒区役所庁舎（旧館）完成
- 1937 日中戦争開戦
緑ヶ丘小学校開校
- 1938 原町小学校開校
- 1939 第 2 次世界大戦開戦
- 1940 不動小学校開校
- 1941 太平洋戦争開戦
上目黒国民学校開校
- 1945 東京大空襲
広島・長崎原爆投下
終戦
目黒区立第一～十一新制中学校設置
目黒区立〇〇小学校へ校名変更
- 1949 区立図書館宮が丘文庫開館
- 1950 東根小学校開校
- 1953 中根小学校開校
- 1954 サレジオ教会完成
- 1957 目黒公会堂開設
菅刈小学校開校
第一中学校開校
- 1959 宮前小学校・東山小学校開校
東山中学校開校
- 1961 区役所庁舎（新館）落成
- 1962 守屋郷土資料館開設
- 1964 新住居表示に着手
東が丘・八雲の新町名誕生
- 1967 区役所本館落成
- 1970 大橋図書館開館
- 1971 守屋教育会館開設
- 1974 三田用水廃止
目黒区民センター開館
緑が丘社会教育館・緑が丘図書館開館
- 1977 第 1 回目黒区民まつり開催
- 1978 「成人の日のつどい」実行委員方式で実施
- 1981 目黒本町複合施設開館
- 1982 友好列車で宮城県角田市へ
- 1984 すずめのお宿緑地公園内で旧栗山家主屋復原
- 1987 目黒区美術館開館
- 1988 洗足図書館開館
- 1991 北京市崇文区と「友好協力関係促進のための協定書」に調印
- 1992 中目黒スクエア開館
- 1994 川の資料館開館
- 1995 宮野古民家自然園開園
- 2000 目黒のさんま祭り開催
- 2002 中目黒 GT 開館
めぐろパーシモンホール開館
八雲中央図書館開館
- 2003 目黒区役所が中目黒の総合庁舎へ移転
- 2006 区立目黒中央中学校開校
- 2008 宮城県角田市と友好都市協定を締結
めぐろ学校サポートセンター開館
めぐろ歴史資料館開館
- 2010 宮城県気仙沼市と友好都市協定を締結
崇文区が東城区と合併し友好協力関係を継続
- 2015 区立大島中学校開校
- 2017 石川県金沢市と友好都市協定を締結
- 2019 大韓民国ソウル特別市中浪区と友好都市協定書を締結
- 2022 目黒区 90 周年

令和 4 年度特別展

「目黒区ゆかりの名工展（仮称）」

大正から昭和前期にかけての目黒地域は、現在のように商業施設や住宅地が立ち並ぶ様相とは違い、目黒川沿岸を中心に工場地帯を形成していました。当時は、「ものづくり」の音の響く街で、街の中には町工場や手工業者の工房も混在しており、身近で熟練技術者の作業を垣間見ることもあったと思われます。工業化が進む一方で、伝統的な技術を継承し、ひたむきにその姿勢を貫く技術者たちもいました。

本展では、そのような時代背景の中で活躍した二人の名工、千代鶴是秀氏（大工道具鍛冶）・小宮又兵衛氏（時絵筆製作者）を紹介します。両者ともに職人や作家が使う道具の製作者ですが、彼らが作り出す道具は、こだわりの強い使用者の要望を叶えるだけにとどまらず、完成度の高さから使用者たちの憧憬の対象へと昇華していきます。千代鶴氏の作品や小宮氏の制作道具一式（当館蔵）などを展示するとともに、仕事にかける名工の姿勢を紹介します。

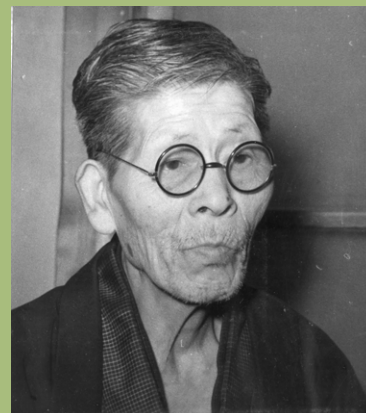
また同時に、現在の目黒区内で活躍中の名工として鞆師・高山一之氏を紹介します。高山氏は平成 30 年に国の「選定保存技術（刀装鞆製作修理）保持者」に認定され、令和 2 年には旭日双光章を叙勲されています。高山氏のこれまでの業績や作品、刀装具の製作工程をご覧ください。

会期：11 月上旬～12 月上旬（予定） 場所：めぐろ歴史資料館企画展示室

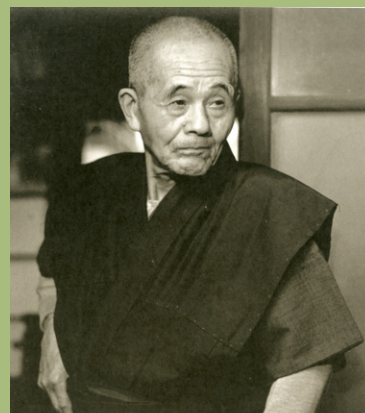


工場地帯だった当時の目黒川

目黒区ゆかりの名工



時絵筆製作者
小宮又兵衛氏



大工道具鍛冶
千代鶴是秀氏



鞆師
高山一之氏

めぐろ歴史資料館・古民家 年間行事予定

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
4 月上旬～5 月上旬 端午の節句			7 月中旬～10 月上旬 企画展 「目黒区 90 周年（仮称）」				11 月上旬～12 月上旬 特別展 「目黒区ゆかりの名工展（仮称）」		1 月上旬～3 月上旬 冬の企画展		2 月上旬～3 月上旬 雛人形飾り
			7 月上旬 七夕飾り			10 月上旬 お月見		12 月中旬 すす払い			

諸般の事情により、日程・内容等は変更になる場合があります。詳細は『めぐろ区報』または目黒区のホームページでご確認ください。

古民家(旧栗山家主屋)のお月見行事

目黒区すずめのお宿緑地公園内にある古民家(旧栗山家主屋)では、ひな祭りや七夕などの年中行事を毎年催し、日本の伝統文化を体験できる事業を行っています。その年中行事の1つであるお月見行事では、古民家の縁側にすきやだんごなどをお供えします。また、18時までの夜間延長開館を行い、「お月見のお話会」や「お月見と民話の夕べ」のお話会を実施しています。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、人が密集するという点から、令和2年度のお月見行事は飾りつけやお供えの展示のみとなり、お話会の開催は中止となりました。令和3年度も対面でのお話会の開催は難しい状況でしたが、お話会の動画を期間限定で古民家のホームページで公開する新たな取り組みを行いました。動画は事前に古民家で読み聞かせを行っているところを撮影し、編集したものです。

例年通りのイベント開催が難しい状況が続いていますが、今後も様々な取り組みを企画し、日本の伝統文化を体験できる古民家での年中行事の開催を考えていきます。

見学のご案内

めぐろ歴史資料館と古民家には駐車場がありません。公共の交通機関をご利用いただくか、お近くの有料駐車場をご利用ください。(めぐろ歴史資料館には身障者用の駐車場あり。)

めぐろ歴史資料館

入館料 無料

開館時間 9:30 ~ 17:00

休館日 月曜日(ただし月曜日が祝日の場合は火曜日)

12/29 ~ 1/3

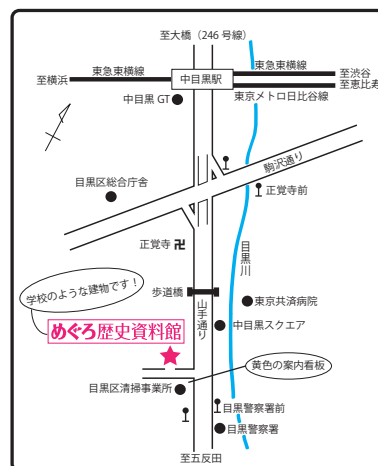
電話番号 03-3715-3571

所在地 目黒区中目黒 3-6-10

【電車】東急東横線・東京メトロ日比谷線「中目黒駅」から徒歩約12分

【バス】東急バス渋71・恵32系統(駒沢通り)「正覚寺」から徒歩約10分

渋41・黒09系統(山手通り)「目黒警察署前」から徒歩約5分



古民家(旧栗山家主屋)

入館料 無料

開館時間 9:30 ~ 15:30

休館日 月・火曜日

(ただし祝日は公開。両日とも祝日の場合は翌日が休館日)

12/28 ~ 1/4

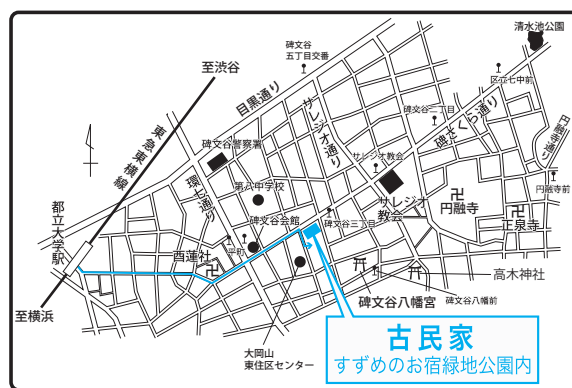
電話番号 03-3714-8882

所在地 目黒区碑文谷 3-11-22 すずめのお宿緑地公園内

【電車】東急東横線「都立大学駅」から徒歩約10分

【バス】東急バス黒10系統「碑文谷三丁目」から徒歩約1分

森91系統「平町」から徒歩約3分



文化財係(目黒区教育委員会事務局生涯学習課)

文化財の保護・保存・活用・普及・埋蔵文化財に関する業務

電話番号 03-5722-9320

月~金曜日 8:30 ~ 17:00

(ただし、祝日及び12/29 ~ 1/3を除く)

めぐろ歴史資料館・文化財だより つどい第17号

令和4年3月発行

発行 目黒区教育委員会

編集 めぐろ歴史資料館

(目黒区教育委員会事務局生涯学習課)

印刷 勝村印刷所

主要印刷物番号

3教-7号